



⑤ ショウガを加害する害虫たち

1. ハスモンヨトウ

主に**新葉**や**未展開葉**を食害する。若齢幼虫は表皮を残して食害するため食害された部分は白変する。**露出した塊茎が食害される**こともある。通常**6月頃から見られ始め8月下旬から9月にかけて最も多く発生**する。

<対策>

- ・ **若齢期防除の徹底**、**ほ場周辺の作物も防除**する。
- ・ 除草。ただし、幼虫発生後に除草を行うと、幼虫のほ場への侵入を助長するので注意が必要である。



2. アワノメイガ

幼虫はふ化後、**新葉**を**加害**するので葉がカスリ状になる。その後幼虫は茎内へ侵入して**内部を食い荒らし、心枯れを起こす**。

第3世代幼虫による**8月下旬～9月**の被害が最も多いが、**7月**の第2世代幼虫による**被害は1次茎の被害が中心**となるため、発生量が少ない割に、**品質や収量に対する影響が大きい**ので注意する。

周辺にとうもろこしなどイネ科作物が混在するような環境では、被害が多くなる。

<対策>

- ・ 茎内に**侵入**すると**防除が困難**であるので、新葉にカスリ状の食害痕が見え始めた頃から7日間隔で3回程度薬剤散布を行う。
- ・ ほ場内の**枯死茎**は、**早めに除去**し処分する。
- ・ とうもろこしほ場に隣接した場所での栽培は避ける。



3. ヒメガガンボの一種

幼虫が塊茎内に食入し、**内部を食害**する。塊茎の内部深く食入するため、商品価値が著しく損なわれる。**貯蔵開始40日後から被害**が目立ち始める。

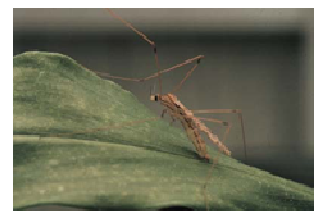
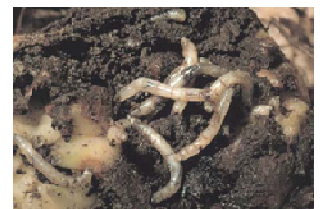
産卵は地上部に露出している**萌芽部**に行われる。

発生は主に貯蔵庫内でみられるが、発生源は収穫した塊茎とともに持ち込まれる卵、幼虫である。

ほ場や貯蔵庫周辺に廃棄された罹病塊茎は本種の重要な繁殖源になる。**発生は中山間地域で多い**。。

<対策>

- ・ **ほ場や貯蔵庫周辺へ塊茎を廃棄しない**ようにする。





※ 農家の皆様へ ※

露地ショウガ通信

回覧

4. クロバネキノコバエ

ふ化幼虫は**収穫時**の茎切断部や萌芽部などの**柔らかい部分から食入**。被害が目立ってくるのは、**貯蔵開始後**40日目頃からである。

＜貯蔵庫での発生源＞

- ・ほ場で産卵された塊茎の持ち込みと貯蔵庫内にいる生息虫。
- ・貯蔵庫内の温度調節のために設けた換気口から排出される茎部の腐敗臭に誘引されて成虫が侵入し、産卵をしている可能性も考えられる。



＜対策＞

- ・貯蔵中は粘着リボン、電撃殺虫器などで成虫を誘殺し、初期密度の低下を図る。被害塊茎を貯蔵庫外に出す。
- ・貯蔵庫換気口に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。
- ・立毛中の**農薬**による**防除**

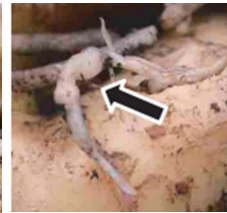
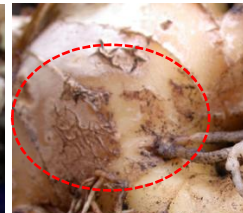


5. ネコブセンチュウ

卵から孵化した幼虫は、**根**から組織中に**侵入**する。根に寄生すると根の組織がふくれて**コブ状**となり、塊茎に寄生すると、表面が細かく割れた**サメ肌状**になる。

＜対策＞

- ・ネコブセンチュウをほ場に持ち込まないように、**種塊茎**は**未発生地**から採る。
- ・植え付け前にネコブセンチュウの被害が無い**種塊茎**を**厳選**する。
- ・**土壌消毒**を行う。



6. ドウガネブイブイ

幼虫が種ショウガや新ショウガの**塊茎**を**食害**する

年1回の発生で、成虫は6月から現れ、9月までみられる。**産卵**は主に**6月～8月**に、有機物に富んだ土壌中に行われる。ショウガでは3齢幼虫が現れる**8月上旬頃**から**被害**が見られ始める。

＜対策＞

- ・常発地では**粗大有機物**の施用量を**控える**。
- ・**土壌消毒**も有効である



※ 「こうち農業ネット」 より抜粋。